

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

1/15
令和6年(2024年)
No.2370

手話でつなげる
言葉とこころ。

「杉並区手話通訳者派遣事業」では、さまざまな暮らしの場面で手話を必要とする方の元に、手話通訳者を派遣しています。聞こえない人と聞こえる人の間で、手話を通して情報や思いを伝える役割を担う手話通訳者。今回は区の登録手話通訳者として現場を支える皆さんにお話を伺いました。

特集

人
すぎなみピト

杉並区登録手話通訳者



※手話で、人が向かい合って会釈をする様子を模した「あいさつ」を表しています。

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



手話を通して、聞こえない人と聞こえる人のコミュニケーションを支えます

手話通訳者を目指した、それぞれの出発点

—皆さんはどんなきっかけで、手話を始めたのですか？

阿部：歯科衛生士をしていたとき、聞こえない患者さんが来院されて、その方と話したいと思ったのがきっかけです。筆談でも必要なことは伝えられますが、たわいもない会話は難しい。ちょっとした会話が治療の不安を和らげることもあるので、聞こえない患者さんとも雑談ができればいいなと思い、広報紙で見つけた手話講習会に参加しました。その後、手話通訳者として活躍する先輩の姿に憧れて、私も手話通訳者を目指しました。

新井：私は最初、子どもが通う幼稚園で難聴のお母さんに会い、彼女から手話を教わるようになりました。やがて保護者仲間幼稚園の中に手話サークルを立ち上げて、幼稚園の園歌に手話をつけるなど活動していきました。その後、せっかく始めた手話なので本格的に勉強してみたい気持ちもあり、区の手話講習会に参加して、数年かけて手話通訳者になりました。

山本：私が手話に興味を持ったのは、聴覚障害者を題材にしたテレビドラマがきっかけです。当時はドラマの影響もあり、自治体の手話講習会は満員だったので、月謝を払い手話教室に入会しました。教室では聞こえない先生が指導してくださって、いつかその先生の手話通訳をきちんとできるようになりたいという思いが、手話通訳者を志す後押しとなりました。

手話通訳者としての活動は、日々学びの連続

—手話通訳者として、日頃どのような現場で通訳を担っていますか？

山本：各自が学校・医療関係の場など、さまざまな場面で手話通訳者として仕事をしていますが、共通で区手話通訳者連絡会（以下、連絡会）にも所属しています。連絡会では、私と阿部さんは区の広報番

組「すぎなみスタイル」を担当。映像の端に出る小さな画面（ウィブ）を通して、内容を手話で通訳する仕事です。

新井：私は、区役所の区政相談課で手話通訳を担当しています。聞こえない方が区役所へ来庁するときに、該当する窓口まで同行して通訳をします。

—対面と映像を通しての通訳では、どんな違いがありますか？

阿部：映像は平面なので、前後で手を行き来させる動きは伝わりにくいんです。手振りが大きすぎると画面から切れてしまうので、そこも注意。あくまで画面で見るときにきちんと伝わる手話であることが大切。また映像は不特定多数の人に見られるものなので綿密に打ち合わせと確認をして撮影しています。このあたりが対面での現場との大きな違いかもしれません。



新井：対面の通訳はその場のコミュニケーションなので、とっさに考えなければならない場面も多いです。以前人間ドックで通訳をしたとき、肺活量の測定で「思い切り吸って勢よく吐く」がどうしてもうまく伝わらず、何度も測り直させてしまった苦い思い出があります。

—ベテラン手話通訳の皆さんですが、新しく手話を覚える機会もありますか？

阿部：それはもう、たくさんあります。日々新しい手話は生まれているので、覚えて学ぶことの繰り返しです。20年以上手話通訳に携わっていますが、つい昔の手話が出てしまうと「古い！」なんて言われちゃいます。若者の何気ない会話や新しい言葉も、すぐに手話ができるんですよ。例えば「ヤバい」など。もちろん正式な手話通訳の

現場では使えないものもありますが、手話としては存在します。

山本：方言もありますよね。私は地方で手話を始めたので、その土地でしか通じない手話もありました。

新井：例えば「名前」とか「休み」という日常用語も、関東と関西だと手話での表現が違うから面白いですよ。

聞こえない人が主体となるような通訳を

—さまざまな現場で活躍されてきた中で、特に思い出深いエピソードを教えてください。

山本：先ほど新井さんの人間ドックの話がありましたが、私も医療の場で通訳に苦労したことがあります。大腸内視鏡検査の準備として薬を飲んでおく必要があるのですが、その説明がとても複雑で…。聞こえない方が、資料を読んでも私の手話を見ても理解しきれていない様子でした。絵を描いたり手話を交えて実演したりして、看護師さんと協力しながら必死に伝えたのが印象深いです。現場では、手話で表現できない言葉を伝えなければならない場面にも直面します。そんなときは、正しい情報をいかに工夫して伝えるかが求められるのです。

阿部：コロナ禍で社会的に規制が厳しい時期は、病院に手話通訳者すら入れず、入院していた聞こえない患者さんがコミュニケーションで苦しい思いをしていました。ようやく病院に入る許可が出て通い始めると、訪れる度に患者さんがうれしそうにたくさん話をしてくれて、難しい状況の中でも行ってよかったと強く思いました。またコロナ禍ではみんながマスクをするようになり、口元の動きで言葉を読み取る聴覚障害者はとても苦労したと思います。透明マスクがまだなかった時期は、自分たちでA4ファイルからフェイスシールドを手作りして必死に対応しました。

新井：私は、スポーツチームで通訳したときに忘れられない出来事がありました。当初は自分を介してコミュニケーションを取っていたので、聞こえない方がチームに入っていけない様子だったのですが、しばらく経った後に再び訪れると、チームメイトが手話を覚えていて直接コミュニケーションを取っていたんです。そんなふうにコミュニケーションが繋がっていくことは、すごく理想だなと感じました。



カンタン

手話でお話してみよう！

あいつと交わすだけで心が和むように、聞こえない方にとっては簡単なあいつだけでも手話で表してもらえると嬉しいそうです。ちょっとした手話から始めてみませんか？

リーフレット「手話でつながる杉並区」では、簡単な手話をご紹介します。

「ありがとう」

手のひらを下にして反対の手をのせて、上に上げます

リーフレットはこちら！

—手話通訳者として大切にしていることを教えてください。

新井：あくまでも主体となるのは聞こえない方。手話通訳者が先導するのではなく、聞こえない方の気持ちを大切にしながら、その方が自己決定できるように動くことをいつも心がけています。一方で、聞こえる方に対して、聞こえない方のことを理解してもらおうためのサポートも大切だと考えています。

山本：学校の保護者会や会議の場で、聞こえない方はどうしても手話で情報を追うだけで終わってしまいます。でも、できる限り意見を発言してもらおうことが大切だと思うので、それがかなう環境を整えることとして、時差のないスムーズな手話通訳を心がけています。そしてどの現場でも、聞こえない方はもちろん、聞こえる方にも「手話通訳者が居てよかった」と感じてもらえるような手話通訳者でありたいと思っています。



阿部：手話通訳者がいると、聞こえる人はつい手話通訳者に話しかける形になりがちです。でも、私たちはあくまでもつなぎ役。コミュニケーションを取る人同士が目と目を合わせて話せるように、さりげなく促すことを大切にしています。たくさんの現場で通訳してきましたが、いつでも「後悔しない通訳をしよう」という気持ちで臨んでいます。これからも一つ一つの現場で、聞こえない方と歩む時間を、大切にしていきたいです。



すぎなみピト

interview

杉並区

登録手話通訳者

「杉並区手話通訳者派遣事業」では、区の手話通訳講習会などを受講し手話通訳者認定試験に合格した登録手話通訳者が、聴覚に障害のある方などからの要請に基づいて、医療現場や各種会議・講演会などさまざまな場面に出席し、意思疎通の支援を行っています。

プロフィール：左から阿部有美（あべ・ゆみ）手話通訳者歴22年／新井加奈子（あらい・かなこ）手話通訳者歴13年／山本清子（やまもと・きよこ）手話通訳者歴9年

「I LOVE YOU」の手話は、厳密に言うと手話ではなく造語ですが、手話が世界共通ではない中でも広く使われているサインです。小指を立てる「I」の指文字、親指と人差し指を立てる「L」の指文字、親指と小指を立てる「Y」の指文字を同時に行い、「I LOVE YOU」を表します。

手話講習会の参加者を募集します



手話は、魅力ある言語であり、コミュニケーションそのものです。区では、皆さんの手話学習を支援する手話講習会を実施しています。興味がある方はぜひ学んでみませんか？

■昼間部＝4月6日～7年2月15日の土曜日、午前10時～11時40分 ▶夜間部＝4月4日～7年2月6日の木曜日、午後7時～8時40分 ■杉並障害者福祉会館 ■図下表のとおり ■教材費 ■往復はがき(12面記入例)に希望クラス、在勤・在学の方は勤務先・学校名・所在地も書いて、2月16日までに杉並障害者福祉会館運営協議会事務局（〒168-0072高井戸東4-10-5） ■図 同事務局 ☎3332-6121

クラス	対象(※)	定員など	
初級(計38回)	手話学習経験のない方	各40名(抽選)	
中級(計38回)	手話学習経験1年程度の方	各30名(選考。3月9日に面接を実施)	
通訳者養成	基本(計38回)	手話学習経験2年以上の方	各15名(選考。3月9日に面接を実施)
	応用(計32回)	手話学習経験3年以上で、杉並区手話通訳者認定試験を受ける方	各12名(選考。3月9日に面接を実施)

※いずれも区内在住・在勤・在学で高校生以上の方(他の自治体の登録手話通訳者を除く)。